

令和7年度 新入生教務オリエンテーション

目次

1. 授業の出席等について
2. 学修を妨げる行為について
3. 学生ポータルサイト（UNIPA）について
4. 授業等に関する重要書類について（学生便覧等）
5. 建学の精神・教育方針
6. 年間スケジュールについて
7. 大学の授業の仕組み（履修、学期・授業時限、受講・出席管理、試験、成績評価委・単位修得）
8. 履修登録（履修登録までの流れについて）
9. 授業科目について
10. 履修計画（卒業に必要な単位数）
11. 教務事務（掲示板、教務課の業務など）
12. カリキュラムフローチャートについて
13. 教職課程およびK-C I Pの履修について

1. 授業の出席等について

(1) 授業へ出席することの重要性

大学の各学期の授業は成績評価を含め15回実施され、全ての回に出席することが原則です。毎年、卒業判定において、単位不足で条件を満たせずに留年する学生がいます。

その原因は、**出席不良による失格であることが多い**からです。

このため、**必ず、授業に出席して卒業に必要な単位を修得**してください。

また、**出欠データは成績判定やGPAに影響することに加え、特待生・奨学金等の判定用の資料として用いられる**ため、皆さんの学生生活にも関係する重要事項です。

(2) 授業への参加意欲

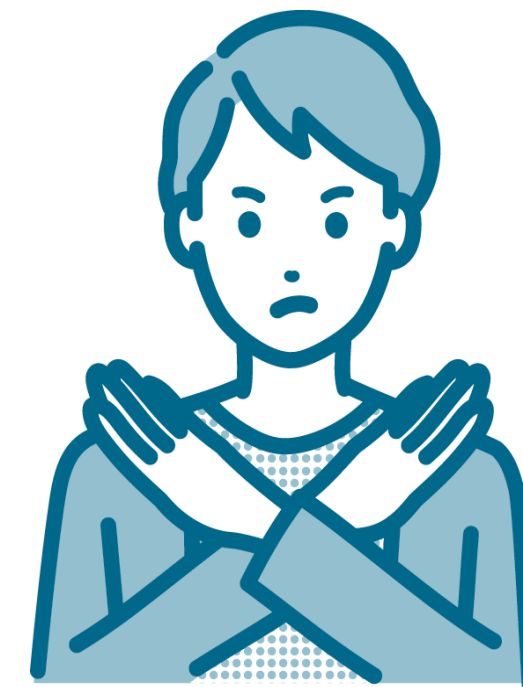
授業への出席はもちろん、授業中の受講態度についても成績評価の対象となりますので、**寝ない、私語をしない**、必要時以外に**携帯を触らない**等の当たり前のルールを守ってください。そのような行為が見受けられた場合、**退席してもらうことになり、授業に出席していないことと同じ扱い**になりますので、**意欲的に学修に取り組みましょう**。

(3) 授業へ出席しないとどうなるか

出席不良・成績不振がみられる場合、単位が修得できないだけでなく、**特待生資格取り消しや、修学指導（教員との個別面談）が行われる**ことがあります。

2. 学修を妨げる行為について

- 大学では、授業や就職活動など、社会人としてのマナーが求められます。自分では、マナー違反ではないと思っても、その行為が周囲の人の迷惑になることがあります。
- 授業妨害とは、授業中の**私語、遅刻・離席、不要なスマホ操作**等が該当します。
- 本学では、全ての学生が集中して勉学に励むことができるように取り組んでいます。授業妨害等を行った学生は、大学のルールに基づき、厳しく対処します。



〔履修ガイド P18〕

■ 授業妨害を行った場合

- ① 教員から複数回注意を受けた場合は、教室から退室させることとする。
- ② 退室を指示された授業は、「欠席」とする。
- ③ 授業態度の改善が見込めない場合は、成績評価を「失格」とする。

■ その他、出欠席に関する不正行為を行った場合

- ① 出欠席に関する不正行為を発見した場合は、該当する授業回を「欠席」とする。
- ② 本行為が悪質な場合は、該当する授業を「失格」とし、懲戒処分の対象とする。

3. 学生ポータルサイト (UNIPA) について

(1) 学生ポータルサイト (UNIPA) とは

UNIVERSAL PASSPORT【通称：UNIPA ユニパ】は、インターネット環境があれば、講義情報（休講・補講等）の確認、授業支援（授業記録確認、配布資料確認、課題提出等）の確認、大学からのお知らせの確認、授業出欠状況確認、成績確認等ができるシステムです。

(2) ログイン方法

入学式時に配付された**学術情報センター設備利用情報通知書**の「**ユーザID**」「**パスワード**」でログインします。

(3) 操作手順

本学のホームページのトップ画面からアクセスしてください。詳細の使用方法については、UNIPA上に掲載している**マニュアルで確認してください。**UNIPAは、毎日確認するようにしてください。



4. 授業等に関する重要書類について（学生便覧等）

(1) 学生便覧

令和7年度入学生のみに適用される事項が記載されたものです。卒業するまで使用しますので、4年間大切に保管してください。

(2) 履修ガイド

履修申告・成績等、授業の受講に関する要領・注意点をまとめたものです。
卒業するまで使用しますので、4年間大切に保管してください。

(3) 授業時間割

所属する学部・学科分のみ毎年4月に配布しています。修正が発生した場合は、履修登録や履修修正前にホームページへ掲載します。

(4) 授業計画（シラバス）【webで各自必要科目分を確認・保存】

令和7年度に開講される授業科目について、その授業概要・計画や到達目標・成績評価方法などを具体的に示したものです。これからの授業を受ける際に、授業の準備や予習・復習に利用してください。

5. 建学の精神・教育方針

(1) 建学の精神 (学是)

〔履修ガイド P2〕

《自律処行》・・・自らの良心に従い、事に処し善を行うこと。

※自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成すること

(2) 教育方針 (三つの方針)

〔履修ガイド 経:P2~6、スポ:P2~6〕

①卒業認定・学位授与方針
(ディプロマ・ポリシー)

4年後に身に付けておくべき能力を示した方針

②教育課程編成・実施の方針
(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーの達成のための教育課程を編成し、教育内容・教育方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた方針

③入学者受入れ方針
(アドミッション・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく、教育内容を踏まえ、受け入れる学生を求める学修成果を示した方針

6. 年間スケジュールについて

【授業期間】

前期：4月14日（月）～8月7日（木）
後期：9月16日（火）～1月28日（水）

【特定授業日】

授業（15回）に不足する曜日の授業分を補うため、通常の曜日と異なる曜日に振り替えて授業を行います。

前期：7月30日（水）・・・月曜日授業の実施
7月31日（木）・・・火曜日授業の実施
後期：12月24日（水）・・・月曜日授業の実施
12月25日（木）・・・月曜日授業の実施
1月16日（金）・・・月曜日授業の実施

【特別補講日】

自然災害等で授業が休講となった場合において授業を実施する日です。

前期：6月28日（土）、7月26日（土）
後期：11月8日（土）、12月26日（金）

【授業回数】

前期・後期：15回

学事日程表に記載された○内数字が各曜日の何回目の授業かを表しています。

令和7年度 九州共立大学学事日程表【4～9月】 令和7年3月18日現在

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 火	(学期始め)	1 木	○	1 日		1 火	○	1 金	特別授業期間～8/7	1 月	
2 水		2 金	○	2 月	○	2 水	○	2 土	<予備日>	2 火	前期再評価試験実施/成績発表実行
3 木	入学式・留学生日本語テスト 大卒後オリエンテーション 後 卒業	3 土	○	3 日	○	3 火	○	3 日		3 水	
4 金	前期開始 新入生・在学学生ガイダンス等	4 日	○	4 月	○	4 水	○	4 月	特	4 木	
5 土	新入生・在学学生ガイダンス等	5 月	○	5 日	○	5 木	○	5 火	特	5 金	8月卒業生修業免許・前期終了
6 日		6 火	○	6 月	○	6 金	○	6 水	特	6 土	保護者懇談会(本学会場)
7 月	新入生・在学学生ガイダンス等	7 水	○	7 日	○	7 土	○	7 木	特	7 日	前期授業終了
8 火	新入生・在学学生ガイダンス等	8 木	○	8 月	○	8 日	○	8 金		8 月	夏季休業/入学式・入学
9 水	新入生・在学学生ガイダンス等	9 金	○	9 月	○	9 月	○	9 土		9 火	前期開始 新入生ガイダンス 前期～8/10
10 木		10 土	○	10 日	○	10 火	○	10 日		10 水	在学学生ガイダンス
11 金		11 月	○	11 日	○	11 水	○	11 月	○	11 木	
12 土		12 月	○	12 日	○	12 木	○	12 火	○	12 金	
13 日		13 火	○	13 月	○	13 水	○	13 日	○	13 土	
14 月	前期授業開始	14 水	○	14 日	○	14 木	○	14 火	○	14 日	
15 火		15 木	○	15 日	○	15 火	○	15 金	○	15 月	教員の日
16 水		16 金	○	16 月	○	16 水	○	16 土	○	16 火	前期授業開始
17 木		17 土	○	17 日	○	17 木	○	17 日	○	17 水	
18 金		18 月	○	18 日	○	18 水	○	18 月	○	18 木	
19 土		19 火	○	19 日	○	19 木	○	19 土	○	19 金	
20 日		20 水	○	20 月	○	20 木	○	20 日	○	20 火	前期授業実施 再評価申込期間/成績発表実行
21 月	履修修正期間～4/22	21 木	○	21 日	○	21 火	○	21 月	○	21 水	再評価申込期間
22 火		22 土	○	22 日	○	22 木	○	22 日	○	22 金	前期授業再評価期間～8/29
23 水		23 月	○	23 日	○	23 火	○	23 月	○	23 土	○
24 木		24 火	○	24 日	○	24 水	○	24 日	○	24 火	秋分の日
25 金		25 水	○	25 日	○	25 木	○	25 月	○	25 水	履修修正期間～8/28
26 土		26 木	○	26 日	○	26 火	○	26 土	○	26 木	
27 日		27 金	○	27 月	○	27 水	○	27 日	○	27 土	
28 月		28 土	○	28 日	○	28 火	○	28 月	○	28 水	
29 火	前期の日	29 日	○	29 月	○	29 水	○	29 火	○	29 木	<予備日>
30 水		30 月	○	30 日	○	30 火	○	30 土	○	30 金	保護者懇談会(地方会場)
		31 日	○	31 月	○	31 火	○	31 土	○	31 日	保護者懇談会(地方会場)

※1. 曜日の右側の○内数字は授業回数を示し、再評価期間、履修修正期間、特別補講日を含む場合は○内数字は1となります。
※2. 成績再評価期間の時間割は、原則として通常授業と同一曜日とします。
※3. 特定授業日(7/30-7/31)は、15回授業確保のため、不足する特定の曜日の授業を実施する日です。
※4. 特別補講日(6/28-7/28)は、自然災害等により授業が休講となった場合に、授業を実施する日です。
※5. 大学行事の日割は変更になることがあります。また、この表に記載されていない行事等の日割はその都度お知らせいたします。

7. 大学の授業の仕組み（履修 学期・授業時限）

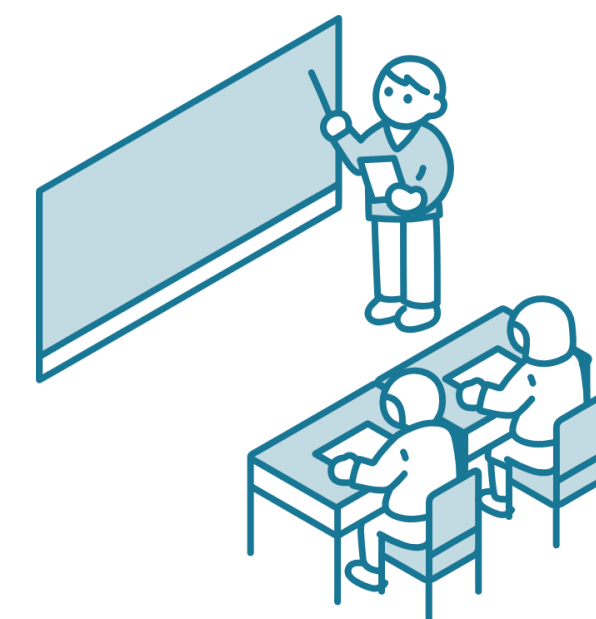
(1) 履修とは 〔履修ガイド P7〕

受講希望科目を登録し、授業を受け成績評価を得ることを言います。

(2) 学期・授業時限 〔履修ガイド P7〕

- 1週間の授業は月曜日から金曜日までの週5日
- 1日は朝9時開始の1限目から、19時50分終了の6限目まで（授業時間:**90分間**）
- 土曜日に補講が入ることがあります。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
09：00～ 10：30	10：45～ 12：45	13：05～ 14：35	14：50～ 16：20	16：35～ 18：05	18：20～ 19：50



7. 大学の授業の仕組み（受講 出席管理）

(1) 授業の出席

〔履修ガイド P7〕

各学期の授業は15回実施されます。
各授業時には対面授業の場合、スマートフォン出席機能の活用、
受講者名簿による氏名確認、出席カードへの記入などにより、
出席の確認がとられます。100%の出席率を目指してください。



(2) 出欠状況の確認について

〔履修ガイド P7〕

UNIPAで「出席状況一覧」を出力して確認します。
出席状況に疑問がある場合は、すぐに授業担当教員に確認してください。

(3) 欠席の届出について

〔履修ガイド 経:P58、スポ:P79〕

やむを得ない事情で授業を欠席する場合は、欠席届の提出が必要です。

①忌引届 ②特別欠席届 ③欠席届

7. 大学の授業の仕組み（試験①）

(1) 試験 〔履修ガイド P8〕

成績は、授業15回実施のなかで総合的に評価されます。

試験は、小テストを複数行う場合や、学期末にまとめのテストを行う場合があります。詳しくは、シラバスの成績評価方法欄に記載されています。

(2) 追試験 〔履修ガイド P8〕

各学期末に行われる試験を、受験できなかった場合には、追試験の受験を申し出ることができます。ただし、申請にあたっては定められた要件があり、また、それを証明する書類の提出が必要です。

(3) 再試験 〔履修ガイド P9〕

成績評価で不可となった場合は、再試験の受験を申し出ることができます。

ただし、再試験の実施は、科目担当の先生の判断によります。

詳しくは、シラバスにて確認してください。

※試験の時間割や追・再試験の手続き方法等の詳細については、時期になりましたら掲示板でお知らせいたします。

7. 大学の授業の仕組み（試験②）

(4) 受験資格 〔履修ガイド P10〕

以下の項目に該当する場合は、試験の受験（単位認定）資格がありません。

- ①履修登録をしていない科目
- ②学納金未納の場合
- ③全授業回数の3分の2以上出席していない場合
（評価：失格）⇒（再履修は可能）

※以下の項目についてもよく読んでおいてください。

- ①試験時の留意事項
- ②試験中の留意事項
- ③不正行為は絶対に許されません

7. 大学の授業の仕組み（成績評価・単位修得）

(1) 単位の認定

〔履修ガイド P12〕

秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点～1点）、不可×（0点）、失格（出席不足：6回以上欠席）で行われます。可以上は、合格として単位が認定されます。

(2) G P A 制度

〔履修ガイド P13〕

本学ではG P A制度を導入しています。G P A制度の詳細については、履修ガイドを十分に確認しておいてください。

(3) 修得単位のめやす

〔履修ガイド P15〕

1年生：35単位以上

2年生：70単位以上

3年生：110単位以上

8. 履修登録（履修登録までの流れについて①）

(1) 登録科目の時間割作成 〔履修ガイド P16〕

新入生研修を通じて履修指導が行われます。
わからないことがあれば、必ず質問をして時間割を作成してください。

(2) 履修登録

履修の登録は、新入生研修で自分のパソコンから行います。

(3) 令和7年度履修要領一覧

①履修登録欄（右端）

「教務課」に○印⇒大学（教務課）が登録する科目

「学生」に○印 ⇒履修要領・方法に従い学生自身が登録する科目

②クラス割担当者欄（左端）

不明な点等の問い合わせは、担当の教員に確認してください。

③履修要領欄および確認方法欄

自身の履修登録科目が記載されている場合は、この履修要領に従い登録をし、確認方法に従い確認作業を行ってください。

8. 履修登録（履修登録までの流れについて②）

(4) 履修登録の留意事項

履修登録を実施するにあたっては、**履修要領一覧**を確認のうえ、「**Web履修登録の方法等について**」を十分に理解し、**登録作業を行ってください。**

(5) 履修修正

履修の修正は、パソコンからwebにより、**4月21日（月）9：00～4月22日（火）16：00**の期間で行います。

(6) 履修の登録上限単位数 〔履修ガイド P17〕

年間上限：1～2年⇒46単位

3～4年⇒48単位

半期上限：1～3年⇒30単位



9. 授業科目について

授業科目は、「**総合共通科目**」、「**専門教育科目**」、「**自由選択科目**」に大きく区分されます。また、これらの科目は、【**必修科目**】 【**選択科目**】 【**自由科目**】の種類に分類されます。

【**必修科目**】 卒業に絶対必要な授業科目ですので、必ず履修しなければなりません。一科目でも修得できていないと卒業できません。

【**選択科目**】 自分で選んで履修を決められる授業科目です。

【**自由科目**】 卒業に必要な単位数としてカウントされない科目です。

※**免許・資格取得に際しては、必要な科目があります。**

これらの授業科目については、各学科でも説明がありますが、学生便覧に記載の履修規程や履修ガイドにおいても確認してください。

10. 履修計画（卒業に必要な単位数）

(1) 卒業要件単位 〔履修ガイド（経・経:P27、地域:P42）（スポ:P27、コスポ:P56）〕

卒業するには、卒業に必要な単位を全て修得しなければなりません。

①総合計**124単位**

②履修区分ごとに必要な単位

- ・総合共通科目：30単位以上
- ・専門教育科目：60単位以上
- ・自由選択科目：18単位以上

③その他詳細な区分ごとに必要な最低単位数があります。

(2) 履修科目チェック表の活用 〔履修ガイド（経・経:P28、地域:P43）（スポ:P28、コスポ:P57）〕

学生便覧の各科目の年次配当表を参照の上、履修した科目の確認資料として活用してください。

※単位互換制度に基づく他大学での履修、教職課程 〔履修ガイド 経:P54、スポ:P75〕
などについては、履修ガイドを確認してください。

11. 教務事務（掲示、教務課の業務など）

(1) 掲示について

〔履修ガイド 経：P56、スポ：P77〕

行事予定、授業、試験、個人に対する呼び出しなど、大学からの連絡事項については、**基本的にUNIPAもしくは掲示板（学思館ピロティ）**で行います。授業の休講・補講や履修登録、成績発表時の照会などは、UNIPAでも確認が可能ですが、緊急な連絡（当日の休講）や修正等もありますので、UNIPAの掲載内容も含めて、**大学登校時は掲示板を必ず確認をしてください。**

(2) 休講・補講について

〔履修ガイド 経：P56、スポ：P77〕

- ① 休講とは、学校行事や体調不良などの教員都合、台風など自然災害等により授業が休みになることをいいます。
- ② 授業が**休講となった場合は、必ず補講が実施**されます。
- ③ 補講は原則的に、**授業期間平日の1～5限目、または第1・3・5土曜日1・2限**に実施されます。
- ④ 休講・補講の連絡は、教務課のUNIPAおよび、教務課掲示板に掲示いたします。

11. 教務事務（掲示、教務課の業務など）

(3) 教務課の業務内容・時間

〔履修ガイド 経:P57、スポ:P78〕

① 窓口時間

深耕館1階 教務課事務室

受付時間：月～金曜日 8:30～17:00

土曜日 8:30～13:00(第1・3・5週のみ)

教務課に係る用件がある場合は、
この時間内に問い合わせを行ってください。

② 業務内容

授業関係、履修関係、試験関係、証明書発行関係、
教員免許関係、各種免許・資格関係

(4) 各種欠席届け出の手続き要領

〔履修ガイド 経:P58、スポ:P79〕

授業を欠席するときは、原則として**教員への届出が必要**です。
欠席の種類に応じて、所定の手続きを行ってください。

(5) 自然災害等に伴う授業等の取り扱い

〔履修ガイド 経:P59、スポ:P80〕

自然災害等による大学の休講連絡については、UNIPAおよび大学のホームページでお知らせします。

12. カリキュラムフロチャートについて

履修ガイドの末尾にカリキュラムフロチャートを添付しています。
カリキュラムフロチャートは、学位修得（卒業）に至るまでの履修順序を示すチャート図です。履修登録をする際にカリキュラムフロチャートを確認して、履修計画を立ててください。

【カリキュラムフロチャート記載情報】

- 各授業科目の単位数、必修、選択、履修可能学年
- 各科目区分の最低修得単位数、卒業要件単位数

12. カリキュラムフローチャートについて (経済・経営学科)

経済学部 経済・経営学科 カリキュラムフローチャート(2025年度以降入学学生)

◎: 必修科目 ●: 選択科目 []: 単位数

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数	卒業要件単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
総合共通科目	文化・芸術領域: ●ことばと日本文化[2]、●スポーツの文化[2]、●ことばと異文化[2]、●情報文化論[2] 歴史・社会領域: ●歴史と国際情勢[2]、●現代国家と法(日本国憲法)[2]、●暮らしと経済[2]、●人権・同和教育[2] 人間・環境領域: ●人間と哲学[2]、●生命と地球[2]、●心の科学[2]、●共生社会を生きる[2]								6単位以上 (各領域2単位以上)	30単位以上
言語・異文化理解科目	●英語Ⅰ[1] ●中国語Ⅰ[1] ●韓国語Ⅰ[1] → ●英語Ⅱ[1] ●中国語Ⅱ[1] ●韓国語Ⅱ[1] → ●英語Ⅲ[1] ●中国語Ⅲ[1] ●韓国語Ⅲ[1] → ●英語Ⅳ[1] ●中国語Ⅳ[1] ●韓国語Ⅳ[1] → ●実用英語Ⅰ ●実用中国語Ⅰ ●実用韓国語Ⅰ ●イングリッシュワークショップ[1] → ●海外研修[2]								5単位以上	
情報教育科目	◎データサイエンス入門[1] → ◎情報処理演習Ⅰ[1] → ◎情報処理演習Ⅱ[1] → ◎情報処理演習Ⅲ[1]								2単位以上 (必修2単位)	
健康教育科目	●スポーツA[1]、●スポーツB[1]、●健康の科学[2]								-	
キャリア教育科目	◎キャリア基礎演習Ⅰ[1] → ◎キャリア基礎演習Ⅱ[1] → ◎キャリア基礎演習Ⅲ[1] → ◎キャリアデザインⅠ[1] → ◎キャリアデザインⅡ[1] ●スキルアップ講座A(IT・スポーツ) [1] ●スキルアップ講座B(公務員養成) [1] → ●スキルアップ講座C(TOEIC) [1] → ●スキルアップ講座D(TOEIC) [1] → ●スキルアップ講座E(公務員養成) [1] → ●スキルアップ講座F(公務員養成) [1]								5単位以上 (必修5単位)	
学部共通科目	◎経済学概論[2] ◎経営学概論[2] ◎簿記入門[2] → ●ミクロ経済学入門[2] ●マクロ経済学入門[2] ●統計学入門[2]								必修4単位	124単位
学科共通科目	●ビジネス実務総論A[2] → ●ビジネス実務総論B[2] → ●ミクロ経済学[2] ●マクロ経済学[2] ●人口学[2] ●金融論入門[2] ●財政学入門[2] ●会計学入門[2] ●企業経営入門[2] ●会社法[2] ●民法(総論・物権)[2] ●日本経済論入門[2] ●経済史[2] ●ビジネス実務演習A[2] ●寄附講座Ⅰ[2] → ●地域経済論[2] ●経済政策入門[2] ●金融論[2] ●財政学[2] ●民法(債権)[2] ●日本経済論[2] ●経営史[2] ●ビジネス実務演習B[2] ●社会人基礎力演習Ⅰ[2] ●寄附講座Ⅱ[2] → ●経済政策[2] ●租税制度[2] ●公共経済学入門[2] ●国際経済学[2] ●労働と法[2] ●民法(親族・相続)[2] ●社会人基礎力演習Ⅱ[2] ●寄附講座Ⅲ[2] → ●公共経済学[2] ●寄附講座Ⅳ[2]									
生活経済領域	●観光地理(国内)[2] ●旅行業務取扱管理者資格(旅行業務)[2] ●旅行業務取扱管理者資格(予約)[2] ●旅行業務取扱管理者資格(国内旅行)[2] → ●日本経済史[2] ●経済学史[2] ●環境経済学入門[2] → ●近代日本経済史[2] ●西洋経済史[2] ●東洋経済史[2] ●国際経済学[2] ●産業組織論入門[2] → ●ゲーム理論[2] ●都市経済学[2] ●産業組織論[2]									
金融・会計領域	●初級簿記[2] ●簿記3級演習Ⅰ[2] ●簿記3級演習Ⅱ[2] ●FP3級演習Ⅰ[2] ●FP3級演習Ⅱ[2] → ●中級簿記[2] ●金融と会計[2] ●簿記2級演習Ⅰ[2] ●FP2級演習Ⅰ[2] → ●上級簿記[2] ●簿記2級演習Ⅱ[2] ●FP2級演習Ⅱ[2] → ●管理会計論[2] → ●財務管理論[2] ●会計監査論[2] ●税務会計論[2] ●国際金融論[2]									
公共マネジメント領域	●公務員実践演習Ⅰ[2] → ●公務員実践演習Ⅱ[2] → ●非常利組織論[2] ●憲法[2] → ●公共マネジメント論[2] → ●地方自治体の財政[2] ●交通論[2] ●行政法(作用法・組織法)[2] → ●社会保障論[2] ●医療・福祉マネジメント[2] ●行政法(救済法)[2] ●公務員受験対策Ⅰ[2] → ●公務員受験対策Ⅱ[2]									
経営管理領域	●ビジネス系検定演習[2] → ●環境のビジネス[2] → ●商法(総論・商行為)[2] ●経営管理論[2] ●ビジネスのデザイン[2] → ●日本経営史[2] ●経営管理論[2] ●マーケティング論[2] → ●経営組織論[2] ●人的資源管理論[2] ●生産管理論[2]									
スポーツビジネス領域	●スポーツビジネス入門[2] ●イベント論[2] → ●スポーツコーチング[2] ●スポーツと法[2] ●スポーツイベント検定演習[2] ●スポーツビジネス企画演習Ⅰ[2] → ●スポーツビジネス実践[2] ●スポーツビジネスワークショップ[2] ●スポーツ施設管理[2] ●スポーツビジネス企画演習Ⅱ[2] → ●地域とスポーツ[2] ●スポーツマネジメント[2]									
データサイエンス領域	●データサイエンス演習[2] → ●経済統計[2] ●統計学[2] ●プログラミング基礎[2] ●MOS演習Ⅰ[2] → ●MOS演習Ⅱ[2]									
ゼミナール科目	◎ゼミナールⅠ[2] → ◎ゼミナールⅡ[2] → ◎ゼミナールⅢ[2] → ◎ゼミナールⅣ[2] → ◎キャリア発展ゼミナール[4] (卒業研究の作成)								必修12単位	
自由選択科目	教職課程関連科目、K-CIP関連科目、他学部・他学科等の科目								18単位以上	

卒業認定・学位授与の方針 (DP)

経済・経営学科は、総合的な教養、経済・経営分野での多様な専門知識を身に付け、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを旨とする。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

【知識・技能】
学士(経済学)として相応しい教養を身に付け、経済学および経営学2領域の学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】
実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身に付けている。

【主体性・協働性・倫理性】
経済・生産活動の担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身に付けている。

12. カリキュラムフローチャートについて (地域創造学科)

経済学部 地域創造学科 カリキュラムフローチャート(2025年度以降入学生)

◎: 必修科目 ●: 選択科目 []: 単位数

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数 (各領域2単位以上)	卒業要件 単位数	卒業認定・学位授与の方針 (DP)
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
総合共通科目	文化・芸術領域: ●ことばと日本文化[2]、●スポーツの文化[2]、●ことばと異文化[2]、●情報文化論[2] 歴史・社会領域: ●歴史と国際情勢[2]、●現代国家と法(日本国憲法)[2]、●暮らしと経済[2]、●人権・同和教育[2] 人間・環境領域: ●人間と哲学[2]、●生命と地球[2]、●心の科学[2]、●共生社会を生きる[2]								6単位以上	30単位以上	地域創造学科は、総合的な教養・経済・経営分野を基盤に地域政策・観光分野での多様な専門知識を身に付け、地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を備えた人材を養成することを目指す。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身に付け、経済学・経営学および地域政策・観光に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身に付けている。 【主体性・協働性・倫理性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身に付けている。
言語・異文化理解科目	●英語Ⅰ[1] ●中国語Ⅰ[1] ●韓国語Ⅰ[1]	●英語Ⅱ[1] ●中国語Ⅱ[1] ●韓国語Ⅱ[1] ●日本語表現Ⅰ[1]	●英語コミュニケーションⅠ[1] ●中国語Ⅲ[1] ●韓国語Ⅲ[1] ●日本語表現Ⅱ[1]	●英語コミュニケーションⅡ[1] ●中国語Ⅳ[1] ●韓国語Ⅳ[1] ●日本語表現Ⅲ[1]	●実用英語[1] ●実用中国語[1] ●実用韓国語[1]				5単位以上		
情報教育科目	◎データサイエンス入門[1]	◎情報処理演習Ⅰ[1]	●情報処理演習Ⅱ[1]	●情報処理演習Ⅲ[1]					2単位以上 (必修2単位)		
健康教育科目	●スポーツA[1]、●スポーツB[1]、●健康の科学[2]								—		
キャリア教育科目	◎キャリア基礎演習Ⅰ[1]		◎キャリア基礎演習Ⅱ[1]		◎キャリア基礎演習Ⅲ[1]				5単位以上 (必修5単位)	124単位	
	●スキルアップ講座A(TOEIC)[1]	●スキルアップ講座C(TOEIC)[1]	●スキルアップ講座R(TOEIC)[1]	●スキルアップ講座S(TOEIC)[1]	●スキルアップ講座A(BT/パスポート)[1] ●スキルアップ講座G(公務員養成Ⅰ)[1]	●スキルアップ講座H(公務員養成Ⅱ)[1]					
	◎インターンシップ(企業研修)[2]		◎インターンシップ(企業研修)[2]		◎インターンシップ(企業研修)[2]						
	◎キャリアデザインⅠ[1]		◎キャリアデザインⅡ[1]		◎キャリアデザインⅢ[1]						
学部共通科目	◎経済学概論[2] ◎経営学概論[2] ●簿記入門[2]	●ミクロ経済学入門[2] ●マクロ経済学入門[2] ●統計学入門[2]							32単位以上 (必修4単位)		
学科共通科目	●観光地理(国内)[2] ●観光地理(海外)[2] ●旅行業務取扱管理者講習Ⅰ(90分)[2] ●旅行業務取扱管理者講習Ⅱ(90分)[2] ●旅行業務取扱管理者講習Ⅲ(90分)[2]	●地域のまちづくり入門[2] ●観光学入門[2] ●地域協働論[2] ●民法[2] ●簿記3級演習Ⅰ[2] ●簿記3級演習Ⅱ[2]	●人口学[2] ●地域創造実習Ⅰ[1] ●簿記2級演習Ⅰ[2] ●宅建演習Ⅰ[2] ●宅建演習Ⅱ[2] ●宅建演習Ⅲ[2] ●宅建演習Ⅳ[2]	●地域経済論[2] ●地域データ分析[2] ●統計学[2] ●金融論[2] ●地域創造実習Ⅱ[1] ●簿記2級演習Ⅱ[2] ●FP3級演習Ⅰ[2] ●FP3級演習Ⅱ[2]	●経営戦略論[2] ●マーケティング論[2] ●地域創造実習Ⅲ[1]	●経営組織論[2] ●ソーシャルビジネス論[2] ●地域創造実習Ⅳ[1]			60単位以上		
地域政策コース			●地域のまちづくり[2] ●地域政策論[2] ●非営利組織論[2]	●地域の安全と生活[2] ●財政学[2]	●経済政策[2] ●地方自治体の財政[2] ●行政法[2]	●公共経済学[2] ●社会保障論[2] ●地域の健康福祉[2]			16単位以上 (所属コース)		
観光まちづくりコース			●観光経済学[2] ●観光史[2]	●観光政策論[2] ●宿泊産業論[2] ●交通産業論[2]	●流通管理論[2] ●消費者行動論[2] ●ブランド論[2]	●地域の観光資源[2] ●サービスとホスピタリティ[2]		●観光研修[2]			
ゼミナール科目			◎ゼミナールⅠ[2]	◎ゼミナールⅡ[2]	◎ゼミナールⅢ[2]	◎ゼミナールⅣ[2]	◎キャリア発展ゼミナール[4] 卒業研究の作成		必修12単位		
自由選択科目	K-CIP関連科目、他学部・他学科等の科目								18単位以上		

12. カリキュラムフローチャートについて (こどもスポーツ教育学科)

スポーツ学部 こどもスポーツ教育学科 カリキュラムフローチャート(2025年度以降入学生)

◎: 必修科目 ●: 選択科目 []: 単位数

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数	卒業要件単位数	卒業認定・学位授与の方針(DP)
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
総合共通科目	文化・芸術領域: ●ことばと日本文化[2]、●スポーツの文化[2]、●ことばと異文化[2]、●情報文化論[2] 歴史・社会領域: ●歴史と国際情勢[2]、●現代国家と法(日本国憲法)[2]、●暮らしと経済[2]、●人権・同和教育[2] 人間・環境領域: ●人間と哲学[2]、●生命と地球[2]、●心の科学[2]、●共生社会を生きて[2]								6単位以上 (修得2単位以上)	30単位以上	【知識・技能】 学士(こどもスポーツ教育学)として幅広い幅広い教養を身に付け、児童・生徒に対する教育の専門知識とスポーツの文化を伝える技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、礼節を重んじ高い力量をもつ教育者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身に付けている。 【主体性・協働性・倫理性】 実践力を備えた教育者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を働き、積極的にボランティア活動等を実施し、社会貢献できる力を身に付けている。
言語・異文化理解科目	●英語Ⅰ[1] ●中国語Ⅰ[1] ●韓国語Ⅰ[1]	●英語Ⅱ[1] ●中国語Ⅱ[1] ●韓国語Ⅱ[1] ●日本語表現Ⅰ[1]	●英語コミュニケーションⅠ[1] ●中国語Ⅲ[1] ●韓国語Ⅲ[1] ●日本語表現Ⅱ[1]	●英語コミュニケーションⅡ[1] ●中国語Ⅳ[1] ●韓国語Ⅳ[1] ●日本語表現Ⅲ[1]	●実用英語Ⅰ ●実用中国語Ⅰ ●実用韓国語Ⅰ				5単位以上		
情報教育科目	◎データサイエンス入門[1]	◎情報処理演習Ⅰ[1]	◎情報処理演習Ⅱ[1]	◎情報処理演習Ⅲ[1]					2単位以上 (必修2単位)		
キャリア教育科目	◎キャリア基礎演習Ⅰ[1]		◎キャリア基礎演習Ⅱ[1]	◎インターシップ(企業研修)[2]	◎キャリアデザインⅠ[1]	◎キャリアデザインⅡ[1]			5単位以上 (必修5単位)		
学部共通科目	●解剖生理学[2] ●スポーツ科学の発展と未来[2] ◎スポーツ指導論[2]	●スポーツ生理学[2] ●スポーツバイオメカニクス[2] ●スポーツ社会学[2] ●スポーツ心理学[2]	●安全・健康管理[2]	●スポーツ栄養学[2]	●体カトレーニング論[2]		●レクリエーション論[2]		6単位以上 (必修2単位)		
児童教育科目	◎体育科教育概論[2]	◎英語科教育概論(選択を含む)[2] ◎社会科教育概論[2] ◎算数科教育概論[2] ◎音楽科教育概論[2]	◎理科教育概論[2] ◎国語科指導法[2] ◎社会科指導法[2] ◎算数科指導法[2] ◎図画工作指導法[2]	●児童英語概論[2] ●キャリアアセスメント(前期)[1]	●生活科指導法[2] ●音楽科指導法[2] ●家庭科指導法[2] ●体育科指導法[2] ●児童英語指導法[2] ●水泳指導法[1] ●ダンス指導法[1] ●キャリアアセスメント(後期)[1]	●キャリアアセスメント(前期)[1]	●キャリアアセスメント(後期)[1]	22単位以上 (必修10単位)			
スポーツ教育科目	●衛生学及び公衆衛生学[2]	◎スポーツ教育概論[2]	●ジュニアスポーツ論[2]	●学校体育のマネジメント[2] ●学校体育指導演習[2] ●学校保健Ⅰ(学校安全を含む)[2] ●精神保健[2] ●ジュニアスポーツ指導演習[2]	●陸上競技指導法Ⅰ ●球技指導法Ⅰ ●球技指導法Ⅱ ●武道指導法Ⅰ ●学校保健指導演習[2]			10単位以上 (必修2単位)			
ゼミナール科目			◎ゼミナールⅠ[2]	◎ゼミナールⅡ[2]	◎ゼミナールⅢ[2]	◎ゼミナールⅣ[2]	◎キャリア発展ゼミナール[4]	卒業研究の作成	必修12単位		
スポーツ実技科目	●体操(体づくり運動を含む)[1] ◎陸上競技A[1] ●バスケットボール[1] ●サッカー[1]		●器械運動[1] ●陸上競技B[1] ◎水泳[1] ●バレーボール[1] ●バドミントン[1] ●ダンス[1] ●剣道[1] ●柔道[1]	●ハンドボール[1] ●ラグビー[1]	◎ソフトボール・野球[1] ◎テニス[1]	●レクリエーション実技[1]			4単位以上 (必修2単位)		
自由選択科目	●教職論[2] ●教育心理学[2]	●教育原論[2] ●特別支援教育概論[1] ●教育課程論[2]	●教育制度論[2] ●教育実習(小・中・高)Ⅰ[2]	●教育相談[2]	●生徒・進路指導論[2] ●道徳教育指導法[2]	●特別活動・社会科授業の展開指導法[2] ●教育実習(小)[4]	●教育実習(小・中・高)[2]		18単位以上		
自由科目	教職課程関連科目、K-CIP関連科目								卒業要件単位に含まれない科目		

13. 教職課程およびK-CIPの履修について

教職課程およびK-CIPプログラムの履修希望者は、履修登録の前に**希望資格登録**をしなければ、必要科目の履修ができません。

(UNIPA利用マニュアル履修登録・希望資格登録を確認してください。)

(1) 教職課程の履修について

教員を目指す学生（教員免許の取得希望者）は、**4月4日（金）16：00～（学思館142）の教職課程オリエンテーション**に出席してください。

履修願の提出がない学生の履修登録は取り消します。

学生便覧に記載の教職課程履修規程を必ず熟読してください。

(2) K-CIPについて

K-CIPプログラム（公務員および教員採用試験の対策講座）の履修を希望する学生は、**4月4日（金）15：00～（学思館142）のK-CIP受講希望者説明会**に出席してください。